

# 星さん(三春)入選

ゆきのまち幻想文学賞

雪をテーマにした文学作品に贈る第二十二回ゆきのまち幻想文学賞で、三春町の星雪江さん(四〇)の「母の毛糸玉」が入選した。主催する青森県の地域誌「ゆきのまち通信」が十四日発表した。国内外から八百三十万五の応募があった。星さんの作品は家族の

妻と病む変化をこの情景に込めてつづった。大賞(賞金三十万円)は千葉県船橋市の山ノ内真樹子さん(五〇)「大きな木」、長編賞(同十万円)は札幌市の結城はにさん(五〇)「うきだあまん」。

# 台湾 航告 渡勸

台湾から本県への渡航延期勧告が解除され、初めてとなる団体客三十五人が十四日、会津若松市の鶴ヶ城など

を訪れた。観光関係者は海外への風評被害の払拭(ふっしょく)につなげられと、期待を寄せている。



太陽光発電 技術を紹介 郡山で産総研

# 3.11 あの日から 1年編

江戸時代から守ってきた家が津波で流された。家族は東京に一時避難後、福島に戻ったが、放射能が心配なので長男の自分だけ大阪に避難することに。逃げてきた時はスエツト上下にひげもじゃで、まるで汚いものを見るような目で見られた。

ちこちに散らばって孤立している福島の避難者をつなぐ会をつくって、交流会とか、行政や病院との交渉に駆け

ちこちから三カ月くらいいして、避難者同士でなんとかしなきゃと思ふようになった。大阪市の人は「個人情報だから」とつれなかつ

みんな同じ不安を抱えている。避難先で甲状腺検査とか健康診断ができないか、病院に掛け合っている。三月で派遣の仕事が切れてしまう人が多く、職の問題も深刻だ。正社員にしてほしくないか、経

震災前、がんで死んだ父の残してくれたお金で形見代わりに買った眼鏡だけは手元にあえますか。ここぞって時には、このスーツと一緒に掛けていこう(大阪市の市営住宅に避難)

# 本県避難者つなぐ いわき市元塾講師遠藤雅彦さん(28)



本県からの避難者をつなぐ会をつくった遠藤雅彦さん(大阪府中央区)



東日本大震災に対するドミニカの支援などに

伊達市梁川町出身の佐藤宗一ドミニカ大使兼ハイチ大使(六三)は十四日、中南米大使会議出席のため一時帰国し、福島民報社のイン

# 大震災

佐藤ドミニカ兼ハイチ大使(梁川)に聞く

台北の旅行会社が募集したツアーで、福島空港のチャーター便を利用して来日した。四泊五日の行程を組み、本県や栃木県、群馬県などを観光している。復興支援や報道関係者向けのモニターツアーはこれまでもあるが、

産総研の「産総研・新技術やミネー」は十四日、郡山市の県ハイテクプラザで開かれた。産総研の太陽光発電に関する展望や技術を紹介した。東北センターは月